

## 4). 遊水効果の検証

前述した上野地区及び安田嶋地区、二見地区、野原地区の遊水効果の検証を行うために、以下の条件での検証を行う。

### ● 検証条件

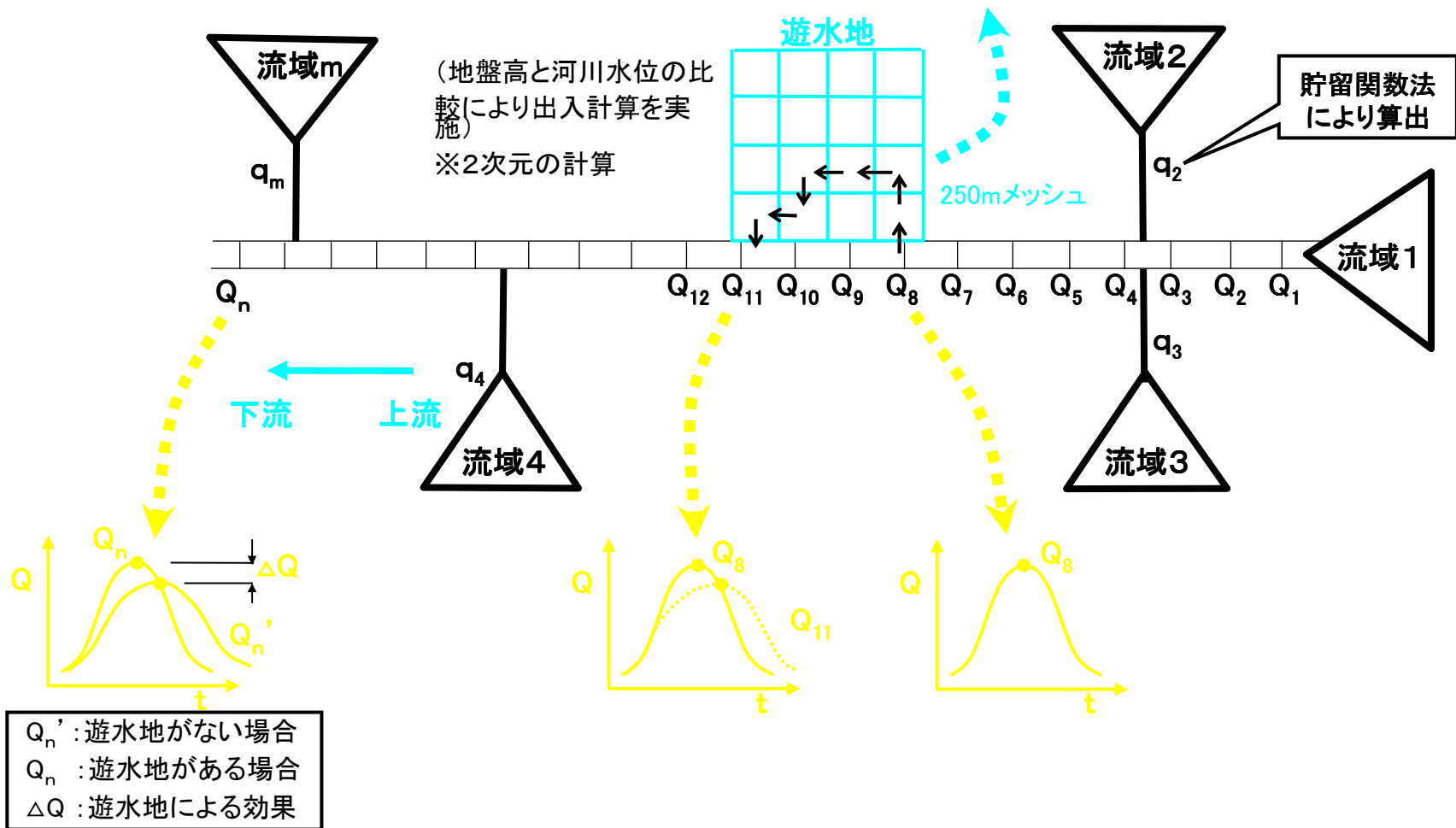
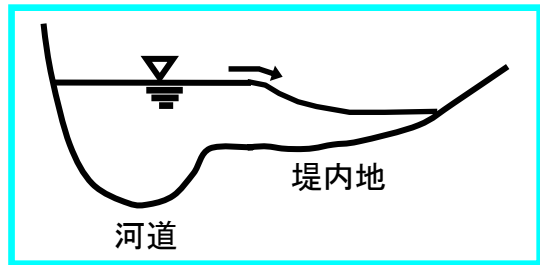
- ・解析手法 : 氾濫解析(二次元不定流計算)
- ・対象降雨条件 : S34.9洪水 × 1.0
- ・大滝ダム条件 : 2,500m<sup>3</sup>/s一定放流
- ・河道条件 : S34.9洪水 × 1.0の対策後

# ●解析手法について

解析手法	遊水地の計算	河道流量の計算方法	計算時間	計算の精度
流出解析 (貯留関数法)	洪水調節施設(ダムと同じ)として計算を実施	ブロック単位で計算	30分単位	粗い
氾濫解析 (二次元不定流計算)	堤内地盤高と河川水位の比較により出し入れ計算を実施	200mピッチで計算	2秒単位	高い

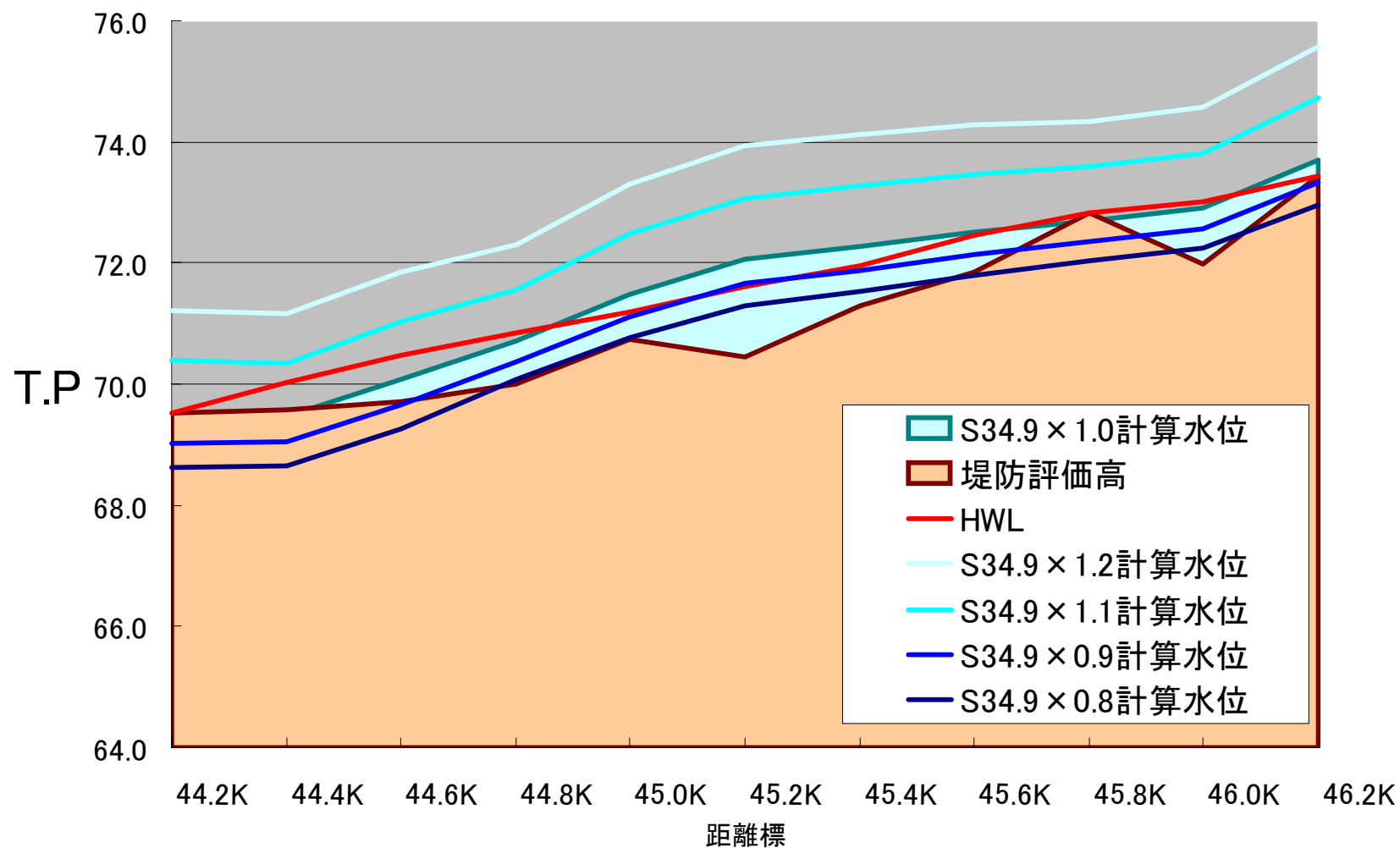
# ● 洪水解析モデルについて

## ▼ 氾濫解析モデル

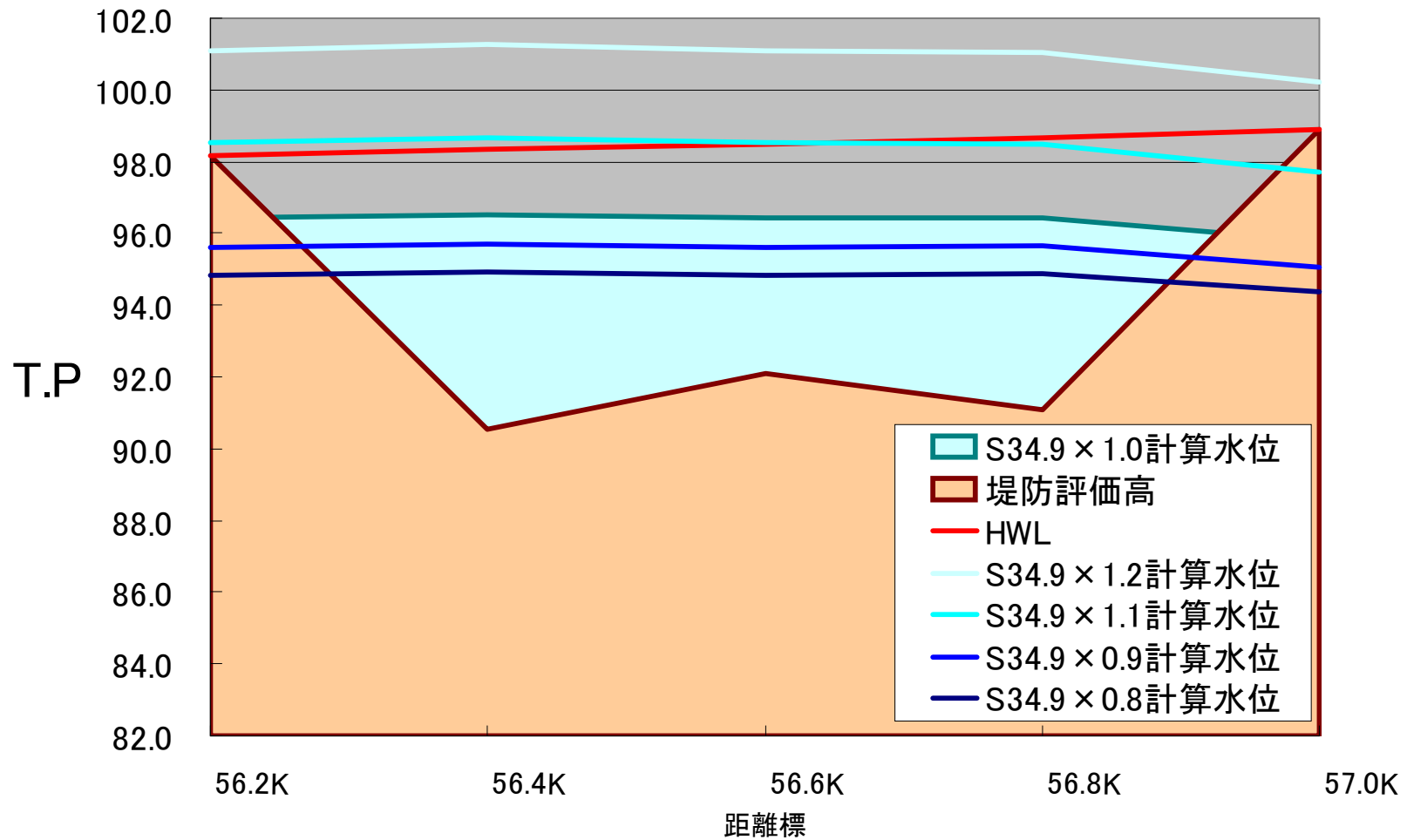


# ●堤防と水位の関係

## ○安田嶋地区

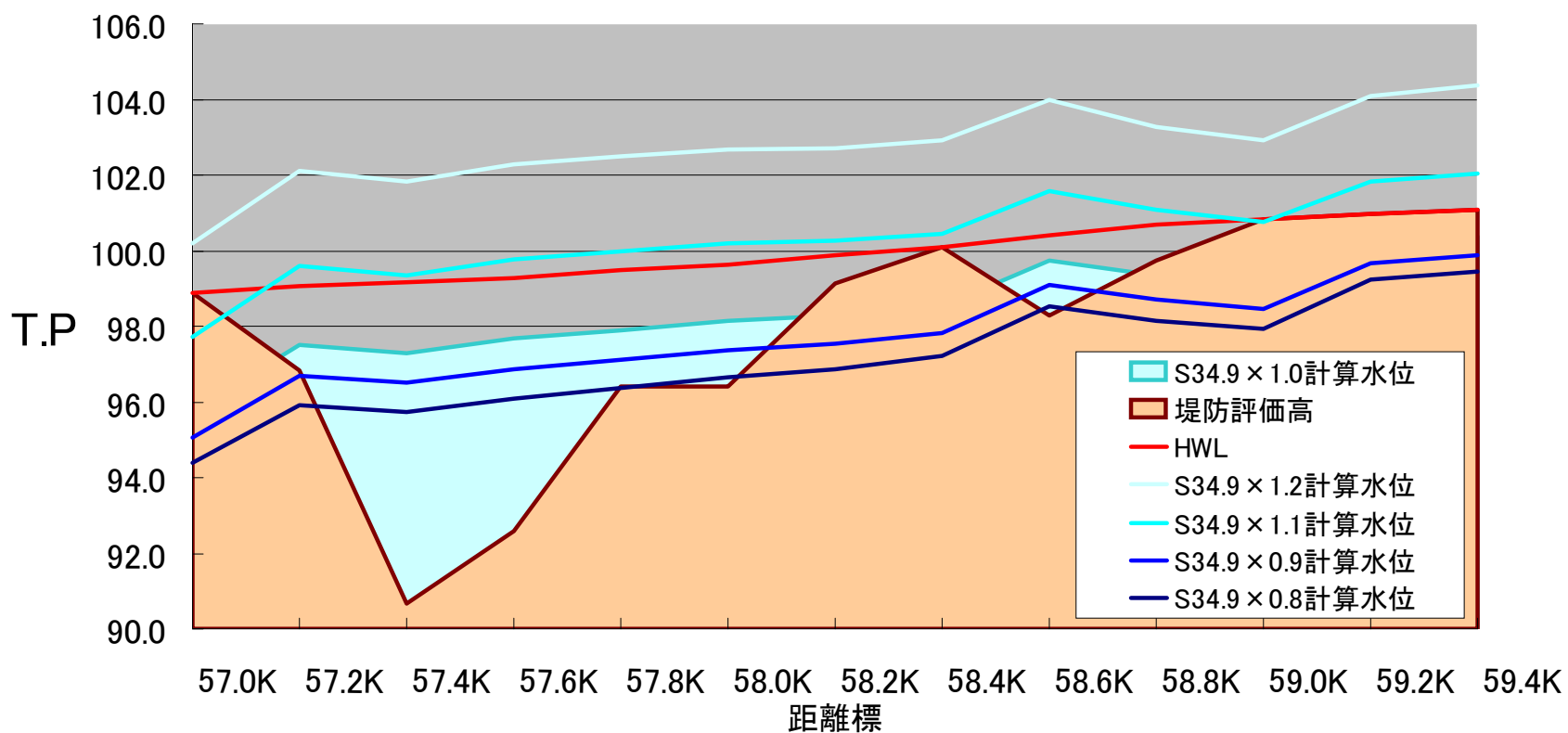


# ○上野地区



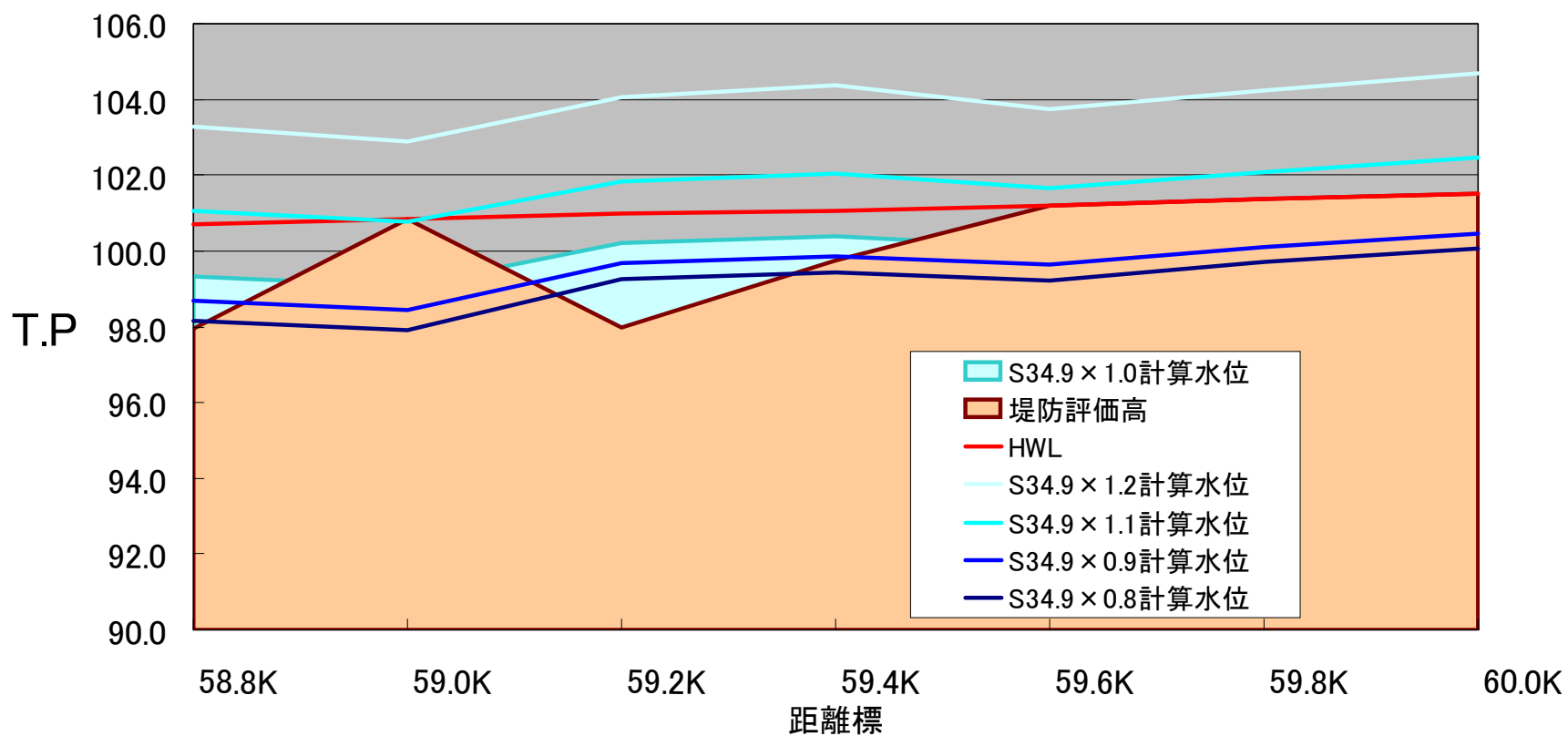
# ○二見地区

## 二見地区における堤防状況



# ○野原地区

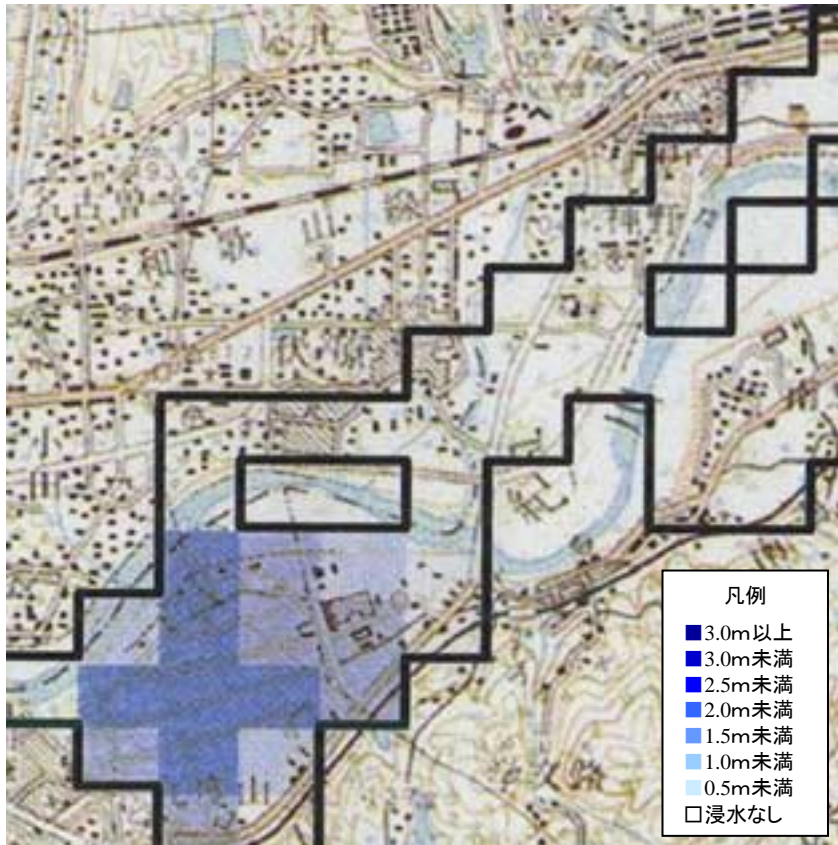
## 野原地区における堤防状況



# ● 氾濫状況

## ○ 安田嶋地区

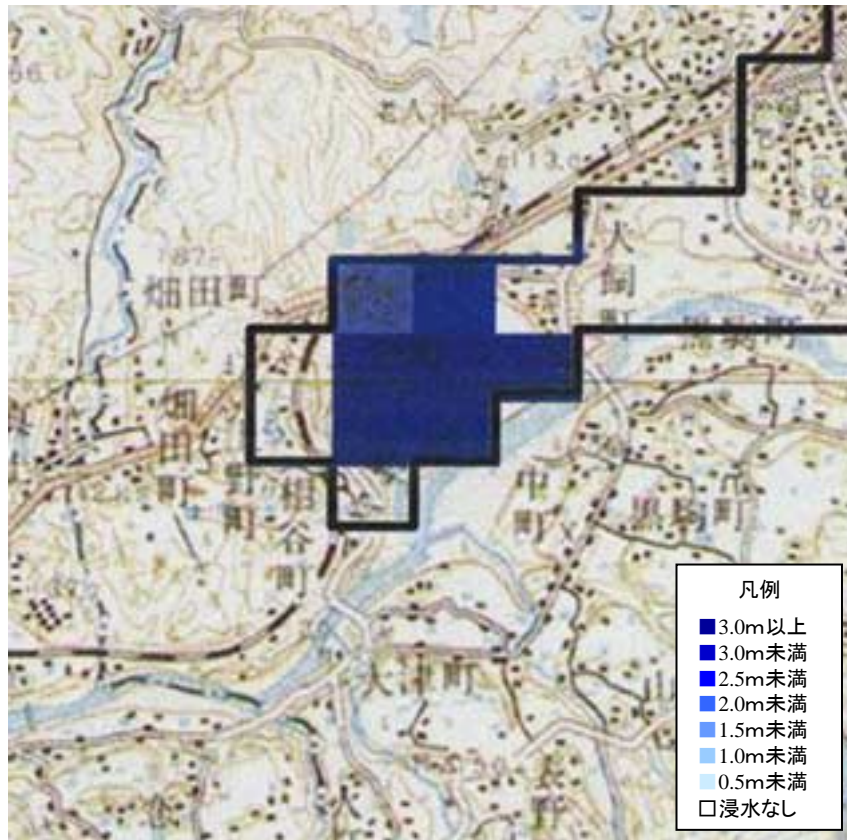
安田嶋地区の対策を施さない場合の氾濫状況は、以下のとおりである。





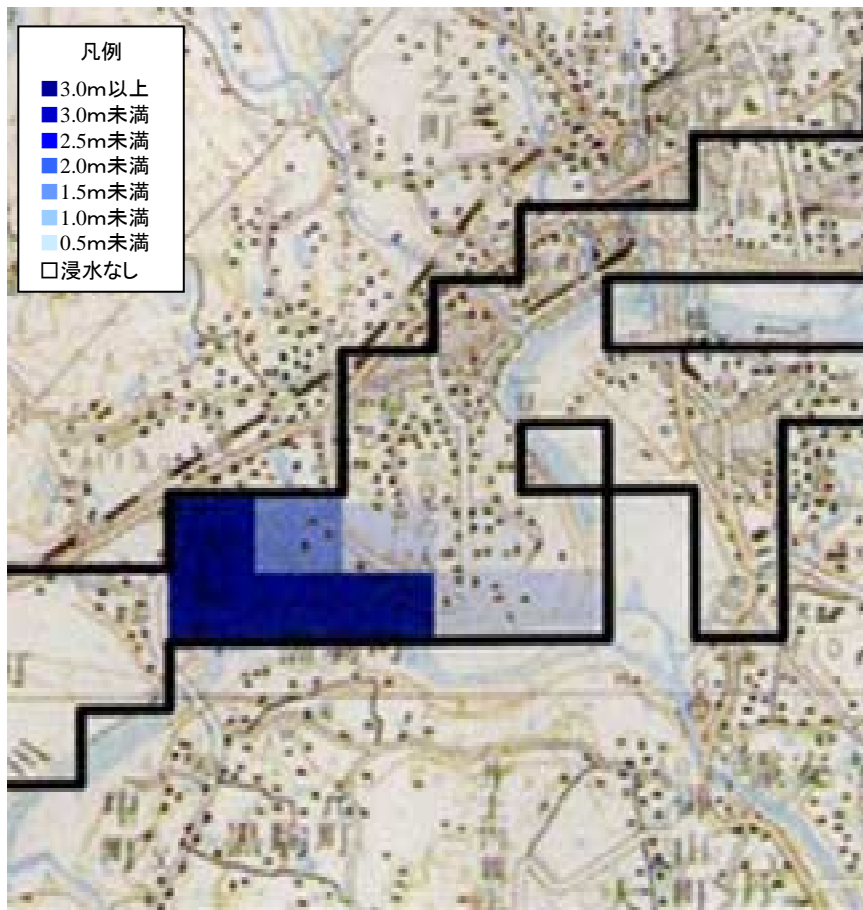
## ○上野地区

上野地区の対策を施さない場合の氾濫状況は、以下のとおりである。



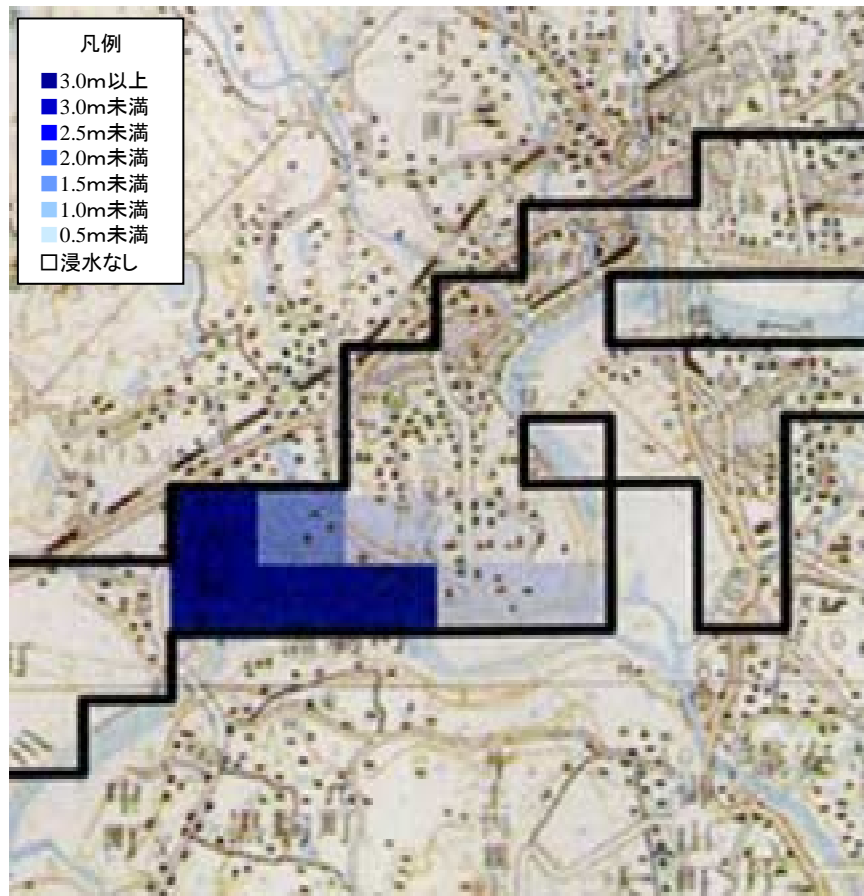
## ○二見地区

二見地区の対策を施さない場合の氾濫状況は、以下のとおりである。



## ○野原地区

野原地区の対策を施さない場合の氾濫状況は、以下のとおりである。

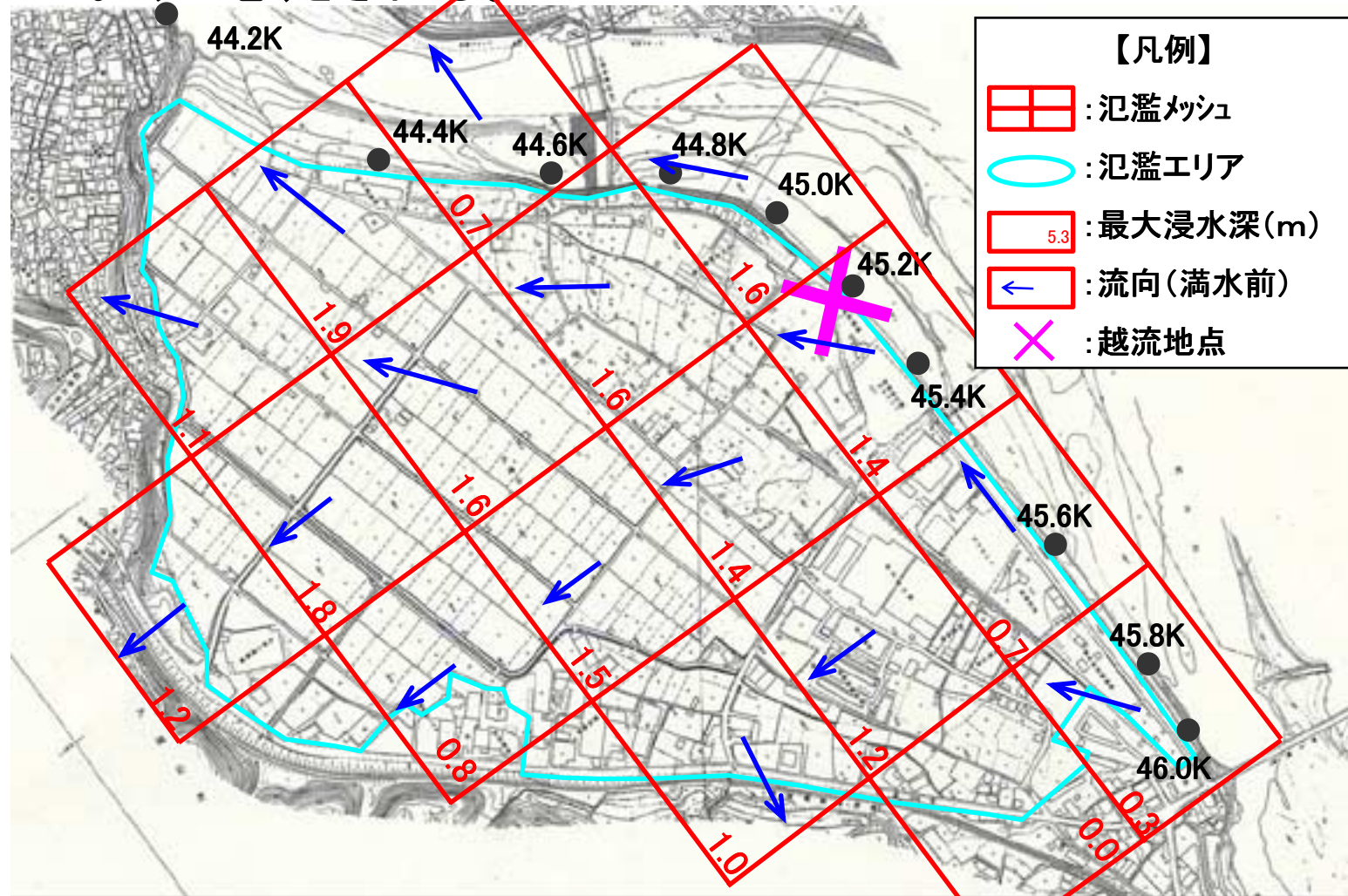


※野原地区は、氾濫想定シミュレーションのメッシュ上では、氾濫エリアが小さいために氾濫域が生じていない。

# ● 氾濫エリアの詳細

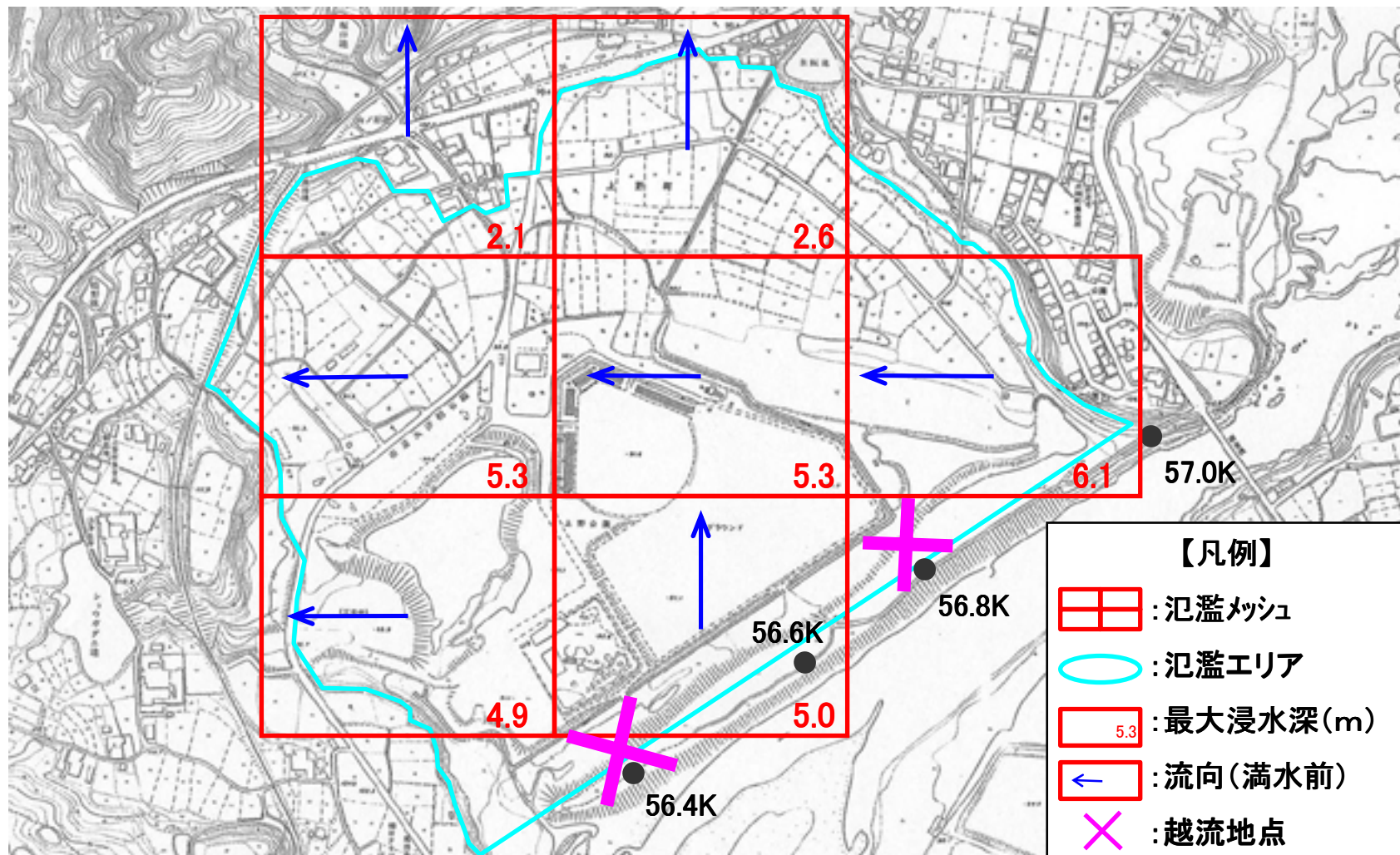
## ○ 安田嶋地区

安田嶋地区の氾濫範囲、浸水深、流向、越流地点は、以下のとおりと想定される。



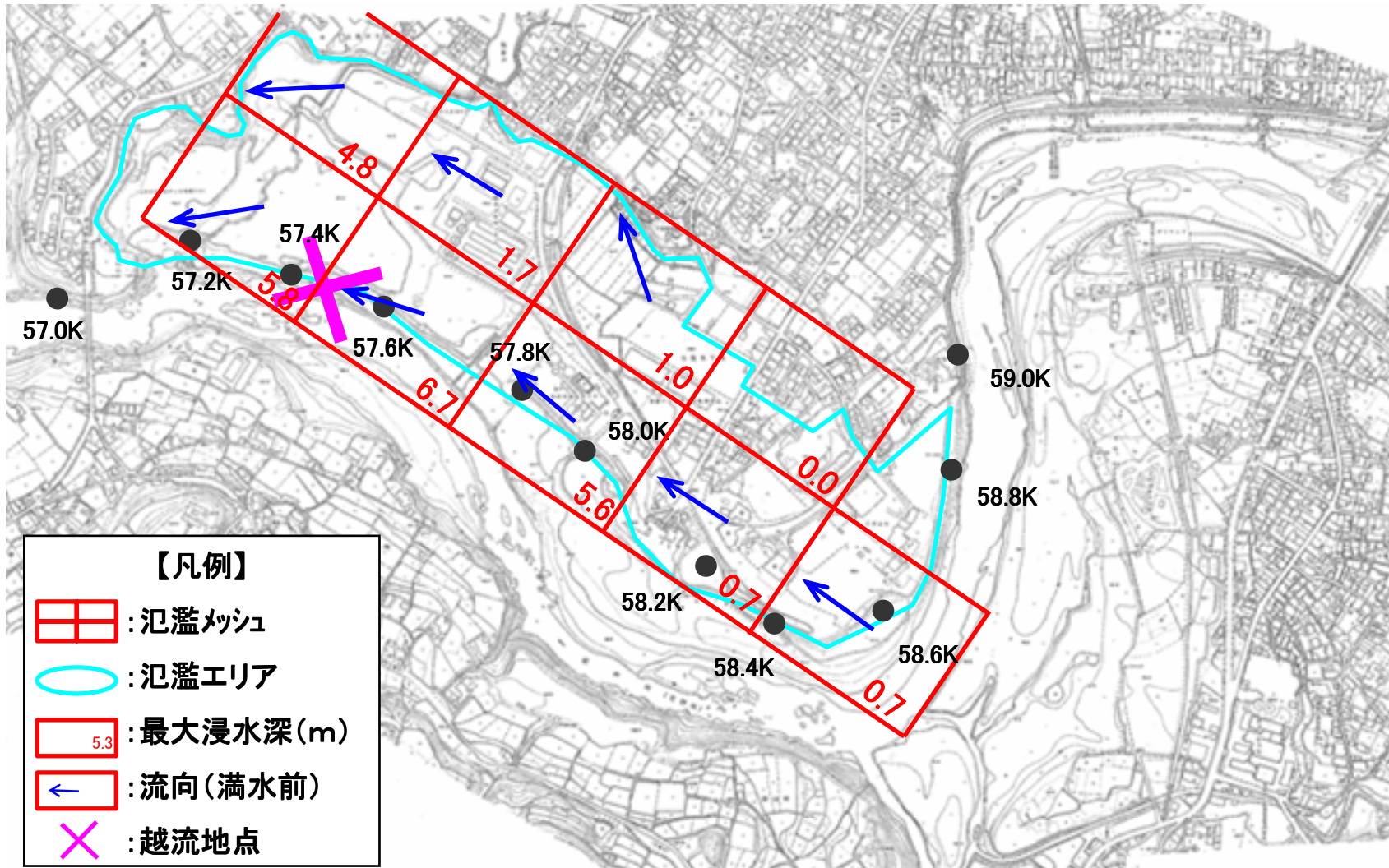
# ○上野地区

上野地区の氾濫範囲、浸水深、流向、越流地点は、以下のとおりと想定される。



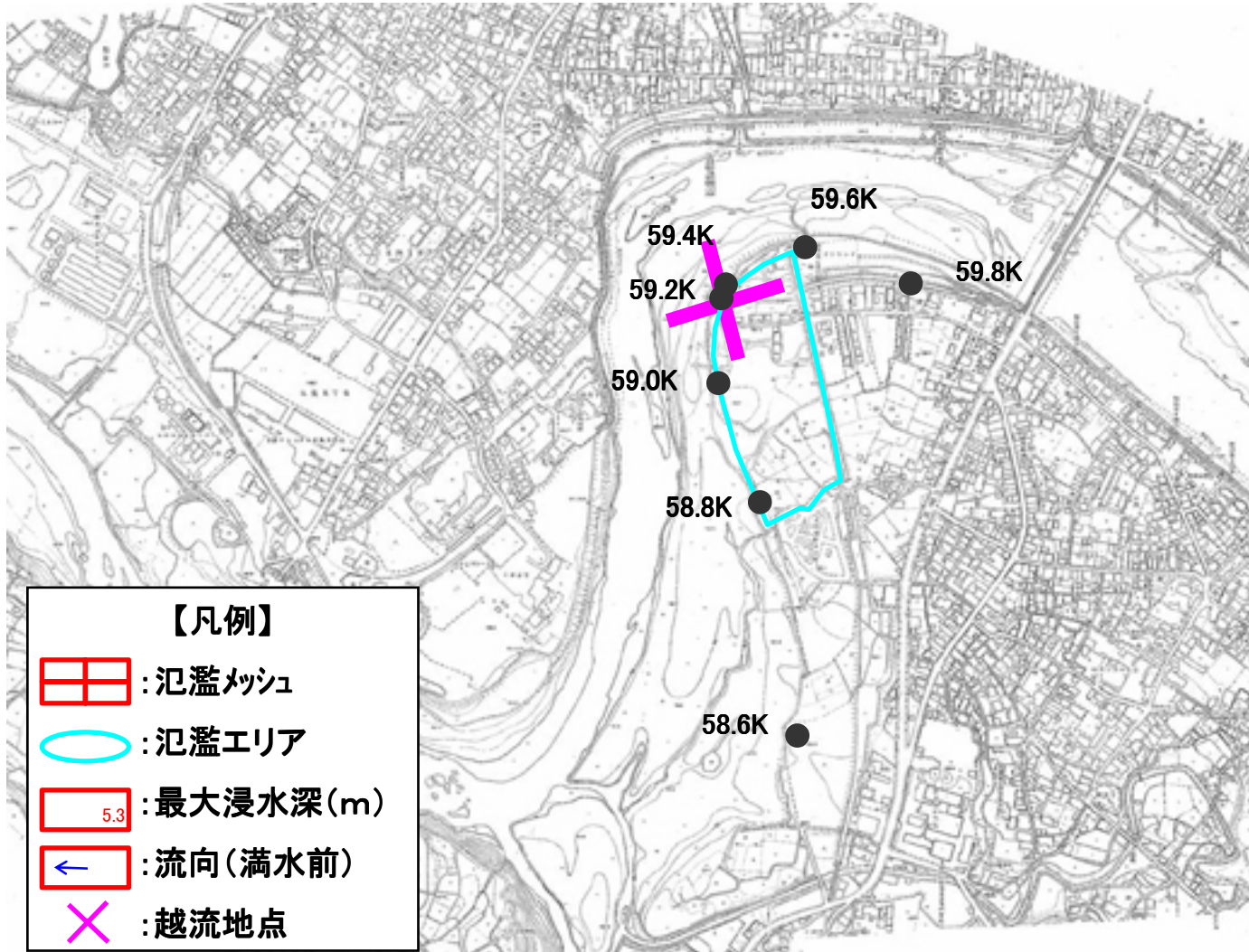
# ○二見地区

二見地区の氾濫範囲、浸水深、流向、越流地点は、以下のとおりと想定される。



# ○野原地区

野原地区の氾濫範囲、浸水深、流向、越流地点は、以下のとおりと想定される。



# ●流出低減効果

上野地区及び安田嶋地区、二見地区、野原地区の流出低減効果は、以下のとおりである。

(昭和34年9月型洪水(伊勢湾×1.0))

単位:m<sup>3</sup>/s

	岩出	藤崎	小田
氾濫なし	6,670	6,290	5,920
安田嶋地区	6,590	6,210	5,860
流出低減効果	80	80	60
上野地区	6,650	6,280	5,910
流出低減効果	20	10	10
二見地区	6,660	6,280	5,910
流出低減効果	10	10	10
野原地区	6,670	6,290	5,920
流出低減効果	0	0	0



# ●問題点の整理

- ・氾濫エリアにおける地権者の同意・協力が必要
- ・土地利用規制が必要(宅地開発の規制)
- ・宅地嵩上げ又は輪中堤等の家屋等を守る施設が必要
- ・家屋等へのアクセス整備が必要